

Seoul ADEX 2015に出展しJA2016をPR

来年10月に日本で開催する2016年国際航空宇宙展（JA2016）のPR、出展者誘致および他展示会の状況確認のため、2015年10月20日（火）～25日（日）にかけて韓国ソウル近郊に位置するソウル空港（空軍基地）にて開催された「ソウル国際航空宇宙・防衛産業展2015（Seoul International Aerospace & Defense Exhibition 2015：Seoul ADEX 2015）」に出展・参加したので、展示会および韓国航空宇宙産業の概況等について紹介する。

1. Seoul ADEX 2015の概況

(1) 開催概要

韓国で最大規模を誇る本展示会は、1996年以来概ね2年に1回のペースで開催されており今回で10回目（JA2016は1966年の第1回から数え14回目）。会期は前述のとおりだが、火曜から金曜までの4日間をビジネス・デー、土日の2日間をパブリック・デーとし6日間開催された。会場は、前回2013年はソウル近郊にある韓国最大規模の室内展示会場であるKINTEX展示会場にて開催され金土日の3日間のみ別会場のチョンジュ国際空港（ソウルの約100km南にある共用空港）でもSeoul Air Showが行われたが、今回は前々回の2011年と同じくソウル空港にて飛行展示を一体とした展示会であった。

主催者は、韓国航空宇宙工業会（KAIA）、韓国防衛工業会（KDIA）および韓国貿易投資振興公社（KOTRA）の3団体だが、展示会の名誉代表を黄教安（ファン・ギョアン）首相、副名誉代表を国防、産業通商資源、国土交通の各長官が務めており、開会式でも黄首相が挨拶するなど国を挙げての展示会となっていた。

(2) 展示会の概況

会場は、最寄りのモラン駅（ソウル駅から地下鉄で約1時間）から徒歩20分強だが、会

期中は会場とモラン駅を結ぶシャトルバスが頻繁に走っており会場へのアクセスは問題なかった。

空軍基地であるソウル空港での展示会の構成は、室内展示（大型テント9張り）、セミナー（大型テント2張り）、屋外での実機や地上装備品等の展示、飛行展示、また12のシャレーが設けられていたが、展示内容は防衛関係が中心で、来場者も軍関係者が大半であった。開会式にも制服姿の各国軍関係者が多く参加しており、日本からも韓国空軍参謀総長からの招待に応じ齊藤航空幕僚長が参加されていた。報道によると空軍関係では日本を含め12カ国の空軍代表が訪韓したとされている。

また、展示会場では、大韓航空（Korean Air Lines）が「韓国政府機関と提携し無人航空機開発を行う」との発表を行うなど無人機の展示も比較的多く見られたほか、飛行展示ではF22、地上展示ではF35のモックアップが注目を集めていた。日本からの出展者はSJACのみで、日本人の来場者もほとんど見かけなかった。

なお、主催者の最終発表値によると、出展者は32カ国、386社・団体（国内208、海外178）。出展面積比では国内71%、海外29%。公式招致者は48カ国から80グループ。来場者は260,310人（内トレード79,291人）としている。出展者数は、2011年が314社・団体、2013

年が361社・団体、今回が386社・団体と増加しているが、海外からの出展者数は2011が196社・団体、2013年が191社・団体であったのに対し今回は178社・団体と落ち込みを見せている。また、ビジネス・デーの来場者が79,291

人と多いが、会期後半は韓国軍の一般隊員の姿が多く見られた。会期4日目はビジネス・デーではあるものの商談風景は少なく間延び感があり、JA2016で予定しているトレード3日間は最適と感じた。



各国の制服が目立つ開会式



F22



韓国国防各機関の共同ブース



最大規模を誇る韓国国防部シャレー



Korean Aerospace Industries (KAI) ブース



Korean Air Lines ブース



HYUNDAIブース



Team Defence Australia

(3) SJACブースの概況

SJACは、友好関係にある韓国航空宇宙工業会（KAIA）とお互いの展示会において無償でブース提供をする協定を結んでおり、今回我々はJA2016の出展誘致に重点を置き参加したが、日本企業やJA2016に対する韓国はじめ海外の関心度は高く有効な活動が出来たと感じている。本展示会では、パリやファンボローのエアショーでも採用されているフランスのBCI社がBtoBミーティングを運営しており、我々も11社（韓国5、米国2、フランス2、トルコ1、イスラエル1）から申込みを受けJA2016の紹介をしたほか、当方からの相手ブースへの訪問、ブース来訪者も多数あった。特に韓国企業からは日本企業との取引を望む声が

多く聞かれ、そのきっかけの場としてJA2016を紹介したところである。Korean Aerospace Industries（KAI）に次ぐ出展規模を誇っていた韓国LG傘下のLIG Nex1 Coも当ブースを来訪しJA2016への出展を検討していると話していった。

なお、BCI社が運営するBtoBミーティングは我々もJA2012で初めて導入し、JA2016でも既にBCI社と準備を始めているところである。

また、会期初日には齊藤航空幕僚長が、2日目には日韓防衛相会談のため訪韓中の中谷防衛大臣が本展示会も視察され、SJACブースにも立ち寄って頂きJA2016への激励の御言葉を頂いた。



General Atomicsとのミーティング

2. 韓国航空宇宙産業の概況について

報道によると、黄首相は「韓国の防衛産業の輸出額が昨年世界10位圏入りし、航空宇宙産業もここ5年間で172%以上成長しており2020年までに世界7大航空宇宙産業国に入ることを目指したい」と本展示会において表明したとされている。現地にて入手した韓国航空宇宙工業会（KAIA）の資料によると、韓国航空宇宙産業の生産高は、2011年23億5,800万ドル（約2,830億円。為替レート120円/\$、以下同じ）、2012年26億9,700万ドル（約3,236億円）、2013年36億600万ドル（約4,327億円）、

2014年41億9,100万ドル（約5,029億円）（予測）と着実に伸びている。

その内訳は、防衛と民間が概ね55%対45%、国内と輸出は概ね50%対50%だが、輸出先の国別内訳を見ると、日本への輸出額が2012年1億200万ドル（約122億円）、2013年1億5,200万ドル（約182億円）、2014年2億1,500万ドル（約258億円）（予測）と大きく伸びており、現地で多く聞かれた日本企業との取引を望む韓国企業の声が数値が裏付けている。

なお、各数値の詳細は表のとおりである。

表1 韓国航空宇宙産業の生産高

単位：百万ドル

	2012年			2013年			2014年（予測）		
	国内	輸出	計	国内	輸出	計	国内	輸出	計
防衛	1,068	380	1,448	1,679	338	2,017	1,889	419	2,308
民間	263	986	1,249	275	1,314	1,589	300	1,583	1,883
計	1,331	1,366	2,697	1,954	1,652	3,606	2,189	2,002	4,191

表2 生産高（プロジェクト別）

単位：百万ドル

	2013年	2014年（予測）
T-50関連	771	940
KT-1関連	78	164
F-16関連	36	39
F-15関連	11	8
KUH（ヘリ）	612	579
民間航空機部品	1,166	1,387
エンジン修理	81	46
エンジン部品	238	324
機体修理	281	327
宇宙事業	78	91
UAV事業	91	113
その他	163	173
計	3,606	4,191

表3 国別輸出額

単位：百万ドル

	2012年	2013年	2014年（予測）	変動率（2012年→2014年）
アメリカ	689	764	873	1.27
フランス	66	210	253	3.83
インドネシア	248	194	4	0.02
イギリス	108	188	230	2.13
日本	102	152	215	2.11
ペルー	-	56	119	-
UAE	35	33	32	0.91
ドイツ	37	13	22	0.59
ロシア	11	11	27	2.45
カナダ	6	8	8	1.33
オーストラリア	9	7	9	1
その他	55	16	210	3.82
計	1,366	1,652	2,002	1.47

3. 所感

前述のとおり本展示会は「国を挙げた防衛産業展」であった。半導体など電子部品や自動車に続けとの韓国政府の意気込みが感じられ、産業の振興には国の関与が欠かせないと改めて感じた。また、JA2016について、防衛を含むのかとの質問も多かったが、これは日頃出展誘致を行っていて特に海外企業から良く受ける質問である。防衛装備移転三原則の策定や防衛装備庁の発足などの環境変化を受けて国内外が注目しており、JA2016への防衛省の関わりについては、現在防衛装備庁と調整を進めているところである。

また、本展示会では中小企業の出展者はあまり見かけなかったが、JA2016は外国企業と

の取引も希望している日本各地の地域航空クラスターにとっても内外企業とのビジネス・チャンス増大の機会になると考えている。事務局では、講演会やセミナーなどの企画も含め準備を進めているところであり多くの出展参加を頂くことにより展示会が活性化することを願っている。

なお、JA2016については、インターネットで「JA2016」と検索して頂くとホームページをご覧頂けるので、ご質問などがあれば是非お気軽に事務局までご一報下さい。

参考文献

1. Korea Aerospace Industry 2015
(KAIA発行)

〔(一社)日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 部長 栗山 純郎〕